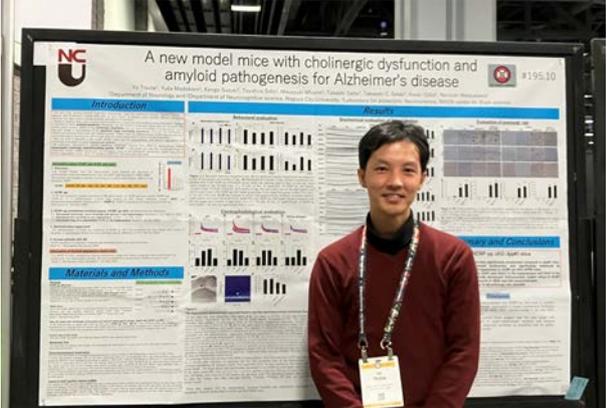


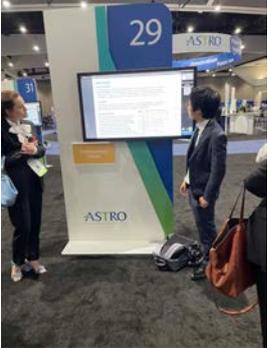
令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	医学 研究科 博士 課程 4年 (生体情報・機能制御医学専攻・病態モデル医学分野)
	() 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	アーメド ムスタファ モハメド モハメド ムスタファ Ahmed Moustafa Mohammed Mohammed Moustafa
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	World Congress of International Federation of Fertility Societies 2023 国際不妊学会連盟世界会議 2023
開催地	Greece (Athens)
開催期間	2023年 9月10日 ~ 2023年 9月13日
研究発表題目	Morphological changes of uterus related to the maternal age in the early stage of pregnancy
発表形式	1. 口頭発表 <input checked="" type="checkbox"/> 2. ポスターセッション <input type="checkbox"/> 3. その他 (使用言語:)
HP掲載用報告 (必ず写真を一枚添付すること) (※)	<p>Our results showed a clear difference between aged and young pregnant mice in histological and molecular levels during early stages of pregnancy. In conclusion, attending this scientific conference in Greece offered numerous benefits for me. It provided an opportunity to learn more about ancient Greek civilization while also engaging with contemporary scholars. Therefore, attending this type of conference is crucial for anyone seeking professional growth and advancement in his respective fields. It provides a platform to showcase one's work to a diverse audience comprising researchers from different countries and disciplines. This exposure can lead to valuable feedback and constructive criticism that can further refine one's research.</p> 

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	大学院医学研究科 博士課程 4年 (神経内科学)	()内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	ツダ ヨウ 津田 曜	
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	Neuroscience 2023 (北米神経科学会 2023)	
開催地	アメリカ合衆国 (ワシントン)	
開催期間	2023年 11月 11日 ~ 2023年 11月 15日	
研究発表題目	A new model mice with cholinergic dysfunction and amyloid pathogenesis for Alzheimer's disease	
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)	
<p>我々の研究室では、1992年に小鹿名誉教授が発見した海馬由来コリン作動性神経刺激ペプチド (Hippocampal cholinergic neurostimulating peptide: HCNP) の研究を精力的に行っています。これまで様々な研究成果を国際誌および学会で発表してきました。今回は、HCNPの前駆体タンパクである HCNP precursor protein (HCNP-pp)のコンディショナルノックアウトマウスと変異型アミロイド前駆体タンパクのノックインマウスを交配しその評価を行ったため、研究結果を北米神経科学会で発表してきました。初めての国際学会での発表であり、当然のことながら全て英語でプレゼンテーション、ディスカッションが行われるため、大変緊張しましたが、しっかりと準備をして臨んだこともあり、特にトラブルなく発表を終えることができました。私のポスターセッションには世界各国から多数の研究者が訪れ、絶え間なくディスカッションを求められたことで、アルツハイマー病研究における我々の研究内容に対して世界が注目し関心を集めていることを実感しました。それは近年主流であったアルツハイマー病のアミロイド仮説に基づく治療が限定的な効果に留まることが示されつつあり、更なる病態解明および新たな仮説に基づく治療法が熱心に模索されている現在のトレンドを反映していると考えられます。我々の研究が世界のアルツハイマー病研究をリードする可能性を胸にして、得られた知識経験を生かして今後のさらなる研究成果の創出に励みたいと思います。</p>		
		

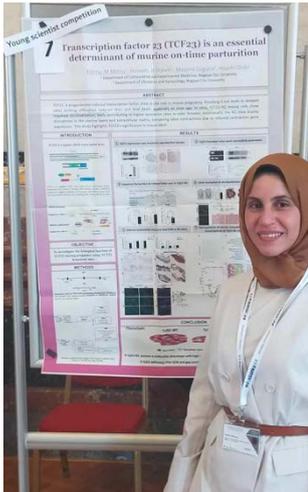
令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	医学研究科 博士課程 4年（放射線医学分野）	（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	たかの せいや 高野 聖矢	
学会の名称（必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること）	ASTRO's 65th Annual Meeting（第65回米国放射線腫瘍学会）	
開催地	サンディエゴ、アメリカ合衆国	
開催期間	2023年 10月 1日 ～2023年 10月 4日	
研究発表題目	Effects of Radiation Doses on Clinical Recurrence in Patients with Biochemically Recurrent Prostate Cancer After Prostatectomy	
発表形式	1. 口頭発表 <input checked="" type="radio"/> 2. ポスターセッション 3. その他 （使用言語：英語）	
<p>□ 成果</p> <p>ポスター発表後の Q&A では、救済放射線治療の総線量、1回線量に関する施設の方針について問う質問があった。特に1回線量の違いについて興味を示す参加者が多くみられ、次の研究テーマとして取り組むべきと考えられた。</p> <p>また企業展示では Adaptive Radiotherapy を搭載した放射線治療機器・システムについての情報収集を行なった。名古屋市立大学病院放射線治療科でも今後 Adaptive Radiotherapy を導入する可能性があり、システムの開発状況、対象となる臓器、計算時間などが実臨床に即したものになりうるか、じっくりと考察を行うことができた。</p> <p>□ 感想</p> <p>本学会は世界最大規模の放射線腫瘍学会であり、最新の研究テーマ、治療技術に触れることができ大変刺激的だった。初めての国際学会発表であり、質疑応答における英語でのコミュニケーションの難しさを感じた。ネイティブにとっては、かなり聞き取りづらい発表だったと思われるが、自分の発表内容には想像以上に興味を持っていただくことができ、研究テーマの立案やポスター制作段階での工夫、共同著者からのレビュー、発表練習など事前の準備が肝要であると感じられた。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

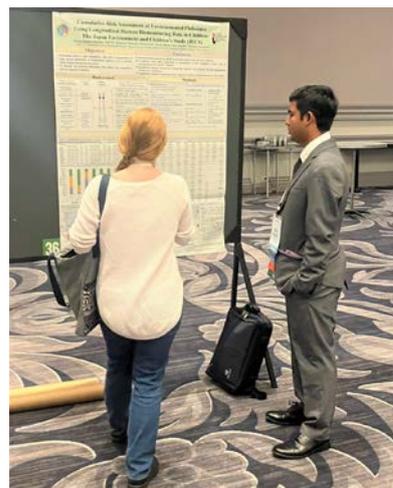
所属	医学研究科 博士課程 4年 (麻酔科学・集中治療医学分野)	()内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	中西 俊之 なかにし としゆき	
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	45th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (第45回米国電気電子学会生体医工学部門国際会議)	
開催地	シドニー、オーストラリア	
開催期間	2023年7月24日 ~ 2023年7月27日	
研究発表題目	Prediction model of postoperative pain exacerbation using an intravenous patient-controlled analgesia device and a wearable electrocardiogram sensor	
発表形式	①. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)	
	<p>2023年7月24~27日にシドニーで開催された、医用工学分野において世界最大規模の学会である、IEEE EMBC 2023に参加した。術後の痛み増強を予測するAI開発についての研究成果をオーラルセッションで発表した。多くの質問があり、聴衆の高い関心が伺えた。質疑応答の内容は、論文化の際に参考にしたい。</p>	

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	医学 研究科 博士 課程 4年 (生体情報・機能制御医学専攻・病態モデル医学分野)		
	() 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入		
フリガナ 氏名	ファトマ モハメド モハメド ミニシイ Fatma Mohamed Mohamed Minisy		
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	28th Symposium of Biology and Immunology of Reproduction (第28回生殖生物学と免疫学シンポジウム)		
開催地	Chateaux Liblice, Czech Republic	チェコ共和国	リブリス
開催期間	令和5年 10月 01日 ~ 令和5年 10月 03日		
研究発表題目 〈和訳〉	TCF23 is an essential determinant of murine on-time parturition TCF23は妊娠中のマウスの出産時期を決定するのに重要である		
発表形式	1. 口頭発表	<input checked="" type="checkbox"/> 2. ポスターセッション	3. その他 (使用言語:)
HP掲載用報告 (必ず写真を一枚添付すること) (※)	<p>I participated in the 28th Symposium of Biology and Immunology of Reproduction organized by the Institute of Biotechnology of the Czech Academy of Sciences. I gave a poster presentation entitled “TCF23 is an essential determinant of murine on-time parturition”, and received the award for the best poster presentation. I enjoyed the scientific discussions with several professors and international colleagues and willing to utilize this experience in my future study. Many Thanks for Nagoya City University for giving me the chance to participate in this international conference.</p>		
	 		

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

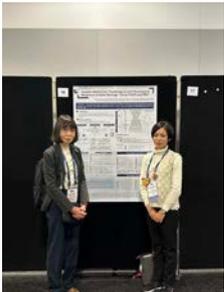
所属	Nagoya City University
研究科	Graduate School of Medical sciences 課程 D4 年 (Occupational and Environmental Health)
フリガナ 氏名	ナヤン・チャンドラ・モハント Nayan Chandra Mohanto
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	International Society of Exposure Science (ISES)
開催地	Hotel Hilton Chicago, Chicago, Illinois, USA.
開催期間	2023 年 08 月 27 日 ~ 2023 年 08 月 31 日
研究発表題目	Cumulative Risk Assessment of Environmental Phthalates Using Longitudinal Human Biomonitoring Data in Children: The Japan Environment and Children's Study (JECS)
発表形式	1. 口頭発表 ②.ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)
HP 掲載用報告 (必ず写真を一枚添付すること) (※)	<p>It was a great experience to attend the International Society of Exposure Science (ISES) conference, held in Hilton Chicago, Chicago, Illinois, USA by August 26 to 31, 2023. I am delighted to attend several plenary lectures, and oral and poster session conducted by world famous environmental scientists in the field of my interest. I also presented my research works on that conference (In photograph one of the researchers asked me some questions and I answered her accordingly). I learned a lot of new approaches and strategies in the field of environmental epidemiology by direct communications with worldwide reputed researchers that may play pivotal role to conduct research in future.</p>



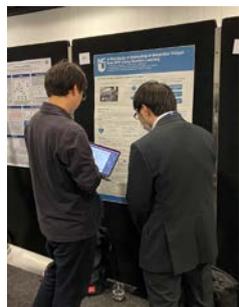
令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	薬学研究科 博士前期課程 1年（創薬生命科学専攻 生薬学分野）	（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	能瀬 逸紀	
学会の名称（必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること）	20th International Congress of Oriental Medicine（第20回国際東洋医学会）	
開催地	ソウル	
開催期間	2023 年 9 月 16 日 ～ 2023 年 9 月 17 日	
研究発表題目	Development of the system to assess the acidity of Pinellia Tuber using cultured cells and its traditional detoxification methods. 〈和訳〉培養細胞を用いたハンゲのイガイガ評価系の構築とその修治のメカニズム	
発表形式	1. 口頭発表 ②. ポスターセッション 3. その他 （使用言語： 英語 ）	
<p>ソウルで開催された第20回国際東洋医学会（International Congress of Oriental Medicine）に参加し、ポスター発表を行いました。日台韓の沢山の先生や学生の皆様と交流し、活発に議論を交わすことができました。著名な先生方の講演を拝聴し勉強になったと同時に、他国の同年代の方々の素晴らしい発表から刺激を受けました。沢山の方が私の発表に興味を持って下さり、意見を交換することができ楽しかったです。特に、日台韓での生薬の使われ方の違いに気づくことができ、興味深く感じました。また、最優秀ポスター発表賞を受賞することができました。発表を応援して下さったすべての方々に感謝するとともに、今後も研究に励んでいきたいと思っております。このような機会を与えて下さいました名古屋市立大学国際学会支援事業に深く感謝致します。</p>		
		

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	芸術工学研究科 博士後期課程 2年（			（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ氏名	バンダ アモンシリ BANDA Amonsiri			
学会の名称（必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること） （第45回国際生体医工学学会） 45th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society				
開催地	〈国 名〉 オーストラリア		〈都市名〉 シドニー	
開催期間	2023年 07月 24日 ～ 2023年 07月 27日			
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 （使用言語： 英語 ）			
<p>□ 研究発表内容</p> <p>発表では、マッサージ施術時の心理・生理反応を様々な測定パラメータで分析した実験結果を報告しました。測定パラメータの意味を明らかにするために、まず主成分分析により測定パラメータを集約することを提案し、自律神経活動バランス、心理的な正の感情と負の感情、脳活動それぞれの評価因子を抽出しました。抽出した評価因子により、2種類のマッサージ技術とコントロールとしてのマッサージ無の3条件を比較することで、心理評価ではマッサージの有無の相違、自律神経活動バランス指標はマッサージ技術の相違を分類できることを結論として報告しました。</p> <p>□ 成果</p> <p>今回国際学会に参加することで、まず、他の海外研究者からの発表に関する評価を得られ、他のポスター発表者との交流ができて、自らの研究の不足している部分も知ることができました。さらに、他の自身と類似の内容を研究する研究者の方々の発表との相違点を知ること、自身の研究の発展や新しい視点を共有することもできました。特に、国際学会であることで、新しい技術や最新研究動向をが得られ、自身の今後の研究に役に立てると思います。</p> <p>□ 感想</p> <p>本学会で初めて国際学会においてポスター発表をしました。まず、英語での発表ということで、非常に不安や緊張を感じましたが、実際に、ポスターでは軽く飲食することができ、気楽に発表や質問ができる雰囲気でお互いの情報交換が活性化されたと思いました。今回日本からの参加者も多数で、日本語で交流することもできました。ポスター発表に加え、口頭発表にも参加でき、類似研究の最新の先端的な傾向をまとめた内容にじっくりと耳を傾けるにはとても良い機会だと思いました。</p>				
				

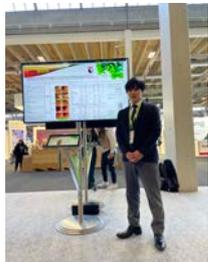
令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	芸術工学研究科 博士前期課程 2年 (芸術工学専攻 情報環境デザイン領域)	()内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	アヤマ ハヤシ 青山 隼大	
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	45 th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (第45回米国電気電子学会医用生体工学年次国際会議)	
開催地	オーストラリア シドニー	
開催期間	2023年 7月 24日 ~ 2023年 7月 27日	
研究発表題目	A Pilot Study for the Estimation of Subjective Fatigue from HRV Using Machine Learning	
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)	
<p>今回私が参加した学会である 45th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society、通称 IEEE EMBC は世界最大規模の医用生体工学の国際学会であり、今大会では 500 以上の口頭発表と 1200 以上のポスター発表が行われた。私は「A Pilot Study for the Estimation of Subjective Fatigue from HRV Using Machine Learning」と題したポスター発表を行った。自身の発表内容と近い内容を研究している参加者も複数いたため、そのような参加者と研究を行う上で直面する共通の課題や、最新の技術動向をどのように研究に反映させていくのかの意見交換を行うことができた。</p>		
		

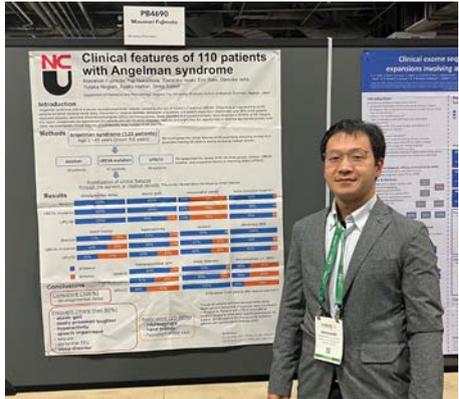
令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	人間文化 研究科 博士後期 課程 3 年 (人間文化専攻)	() 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	さくらい たかひろ 櫻井 貴大	
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	31 st EECERA Conference, Portugal. (ヨーロッパ幼児教育学会 第31回大会 ポルトガル)	
開催地	ポルトガル	
開催期間	2023 年 8 月 30 日 ~ 2023 年 9 月 2 日	
研究発表題目	How do preschool teachers and preschool support teachers work together and structure a shared frame	
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)	
HP 掲載用報告 (必ず写真を一枚添付すること) (※)	<p>アジア中心の学会に参加した時と比較すると、ヨーロッパは学力や能力を高めるという部分に焦点を当てて議論がされているような印象を受けた。それに対して、アジア中心の学会では非認知能力という概念が非常に理解されやすい傾向があるような印象を受けた。</p> <p>加えて、ヨーロッパは人種の違いが日常の中に溶け込んでいるため、多様性に触れる文化である。その点、定型発達児の中に障害児が在籍していることが困ることという捉え方ではなく、多様性の一つとして認識されている印象を受けた。</p> <p>ヨーロッパでの学会は初参加であったが、アジアとの文化的背景の大きさを感じる経験となった。一方で、日本の保育についてはほとんど知られていなかったため、今後も日本の保育について学会発表や論文投稿を通して議論を重ねていきたいと思った。</p>	
		

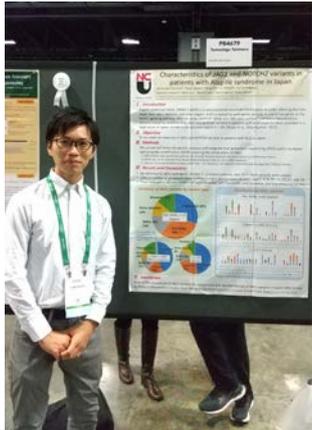
令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	医学研究科 博士課程 3年 (消化器・代謝内科学)
フリガナ 氏名	ウノ コノム 宇野 好
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	UEGW 2023 (欧州消化器病週間2023)
開催地	デンマーク コペンハーゲン
開催期間	2023年10月14日 ~ 2023年10月17日
研究発表題目	<p>THE IMPACT OF PROTON PUMP INHIBITOR OR POTASSIUM-COMPETITIVE ACID BLOCKER FOR PREDICTING THE CURALITY OF ENDOSCOPIC RESECTION IN ULCERATIVE EARLY GASTRIC CANCER</p> <p>(潰瘍合併早期胃癌の内視鏡的治療切除の予測に関わる PPI・P-CAB の有用性)</p>
発表形式	1. 口頭発表 ②. ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)
<p>HP 掲載用報告 (必ず写真を一枚添付すること) (※)</p> <p>UEGW 2023 (欧州消化器病週間2023) が2023年10月14日から10月17日までデンマーク・コペンハーゲンで開催され、参加しましたのでご報告します。UEGW は消化器病領域において世界最大規模の国際学術集会の一つで、毎年世界各国の医師及び研究者が数万人集まり研究成果の発表と活発な議論がされます。今回私は「THE IMPACT OF PROTON PUMP INHIBITOR OR POTASSIUM-COMPETITIVE ACID BLOCKER FOR PREDICTING THE CURALITY OF ENDOSCOPIC RESECTION IN ULCERATIVE EARLY GASTRIC CANCER」という題目で発表をしました。ポスター発表でしたが、英語で伝える難しさ、特に英語を正しく理解し瞬時にわかりやすく伝える難しさを痛感しました。質疑応答では自分の考えや意見を活発に議論し合う積極性が国内の学会との違いとして感じました。またプレゼンテーション能力の高さにも驚かされました。企業ブースでは日本未導入の最先端の機器やデバイスに触れることができました。国内と国外では技術や考え方に少々違う点があり、そこ生まれる独自の機器の発展は非常に興味深く、日本では感じる事ができない一面でした。</p> <p>今回この機会を与えてくださった片岡教授をはじめ、指導医の志村准教授、久保田准教授に感謝申し上げます。言語の壁は想像以上のものがありましたが、今後の課題としてポジティブに捉えることができました。それらをクリアして得られるものは非常に多く、モチベーションの維持にも繋がりました。ヨーロッパは以前よりアクセスしづらく長旅となりましたが、ここで得られた経験は変え難いものであり、今後の研究や臨床に役立てていきたいと思っております。</p>	
	

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	医学研究科	博士課程	3年（新生児・小児医学分野）	（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ氏名	藤本 真徳			
学会の名称（必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること）	The American Society of Human Genetics ANNUAL MEETING 2023（アメリカ人類遺伝学会）			
開催地	アメリカ合衆国 ワシントン			
開催期間	2023年 11月 1日 ～ 2023年 11月 5日			
研究発表題目	Clinical features of 110 patients with Angelman syndrome.			
発表形式	1. 口頭発表 ②. ポスターセッション 3. その他 （使用言語：英語）			
HP掲載用報告（必ず写真を一枚添付すること）※	<p>アメリカのワシントンで開催されたアメリカ人類遺伝学会に参加しました。今回、私は Angelman 症候群 110 例の臨床的特徴について発表しました。海外の方からも多くの質問をいただき、積極的な議論ができました。また、遺伝子診断・治療、研究において最新の知見を得ることができ、今後の臨床・研究に対して大変勉強になりました。このような機会を与えていただきました、名古屋市立大学国際学会発表支援事業に深く感謝いたします。</p>			
				

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	医学研究科博士課程1年（生体情報・機能制御医学専攻 新生児・小児医学分野）（ ）内には、専攻・分野・領域・系列等を記入		
フリガナ 氏名	タニムラ トモシゲ 谷村 知繁		
学会の名称（必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること）	American Society of Human Genetics annual meeting 2023（アメリカ人類遺伝学会学術集会 2023）		
開催地	Washington, DC		
開催期間	2023年 11月 1日 ～ 2023年 11月 5日		
研究発表題目	Characteristics of <i>JAG1</i> and <i>NOTCH2</i> variants in patients with Alagille syndrome in Japan.		
発表形式	1. 口頭発表 <input checked="" type="radio"/> 2. ポスターセッション 3. その他 （使用言語： ）		
HP掲載用報告（必ず写真を一枚添付すること）（※）	<p>この度、アメリカのワシントン DC で開催された American Society of Human Genetics annual meeting 2023 に参加、ポスター発表をいたしました。世界で最も大規模な人類遺伝の学会に参加することで最先端の知見が得られ、ポスター発表では各国の先生方のご意見を伺うこともできました。非常に得難い貴重な経験ができ、今後の研究や自己研鑽に生かしていきたいと思っております。研究をご指導いただきました先生方、ご支援を賜りました皆様方に心より御礼申し上げます。</p>		
			

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	薬学研究科 博士課程 4年 (医療機能薬学専攻) 病院薬剤学分野	() 内には、専攻・分野・ 領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	カワタ リョウヤ 川田 龍哉	
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	The 17 th Pan-Pacific Continence Society Meeting (第17回環太平洋尿禁制会議)	
開催地	台湾・高雄	
開催期間	2023年10月14日 ~ 2023年10月15日	
研究発表題目	Effects of catheterization on detrusor muscle contraction after bilateral accessory nerve injury in rats	
発表形式	1. 口頭発表 (2.)ポスターセッション 3. その他 (使用言語:)	
HP掲載用報告 (必ず写真を一枚添付すること) (※)	<p>私は、2023年10月14日~15日に台湾・高雄で開催された The 17th Pan-Pacific Continence Society Meeting に参加し、ポスター発表および Young Generation Forum での発表を行いました。発表を通じて自身の研究に対する理解がより深まり、さらなる研究発展についての構想に繋がりました。さらに他の研究者から様々な先端的知見や研究成果について学ぶことができました。Young Generation Forum では、海外の若手研究者と交流や意見交換を行うことができ、非常に貴重な体験となりました。本大会で得られた経験を活かして今後の研究を進展させ、研究成果を世界に発信できるよう励みたいです。</p>	



令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

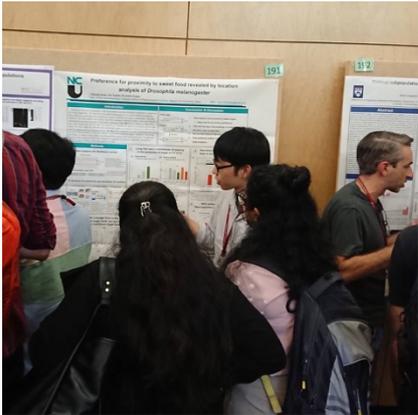
所属	薬学研究科 博士課程 4年 (医療機能薬学専攻 薬物送達学分野)			()内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	ス 識	フ 訪	ベ 部	ス 晋
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)				
The Asian Federation for Pharmaceutical Sciences 2023 (アジア薬科学会議 2023)				
開催地				
〈国名〉ベトナム 〈都市名〉ハノイ				
開催期間				
2023年 11月 8日 ~ 2023年 11月 10日				
研究発表題目				
Preparation of drug-loaded citrus lemon-derived extracellular vesicles for drug delivery to glioma 〈和訳〉脳腫瘍への薬物送達を目指した薬物封入シトラスレモン由来細胞外小胞の調製				
発表形式	1. 口頭発表	2. ポスターセッション	3. その他	(使用言語:)
<p>私は、2023年11月8-10日にベトナムで開催された「The Asian Federation for Pharmaceutical Sciences 2023」に国際学会支援制度を利用し、口頭発表を行ってきました。発表では、アジア諸国の研究者から多くの質問やアドバイスを頂くことが出来、今後の研究を進める上で大変参考になりました。また自分の意見を正確に伝えることが出来ず、自信の英語力の低さを痛感しました。今回の学会を通して得られた知見を研究に活かすと共に、今回の悔しさを糧に国際学会に再度挑戦したいと思います。最後に、国際学会への参加をご支援くださった名古屋市立大学国際学会発表支援事業に深く感謝をいたします。</p>				
				

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

[海外渡航における旅費の支援]

所属	看護学 研究科 博士前期 課程 1 年 (高齢者看護学)	() 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ氏名	イシハラ カズミ 石原 一美	
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	2024 EAFONS 東アジア看護学研究者フォーラム	
開催地	香港、香港大学	
開催期間	2024 年 3 月 6 日 ~ 2024 年 3 月 7 日	
研究発表題目	Literature review on verbal abuse, violence and sexual harassment experienced by Japanese home care nurses	
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)	
□ 成果	<p>電子ポスターでの掲載となったため、各電子掲示板でどの程度自身のポスターを見ていただけたか把握ができなかった。また質疑応答に答える機会もなかったため、発表としての成果は実感しにくい結果となった。</p>	
□ 感想	<p>ポスター発表は、大学内に設置されている 10 台の電子掲示板で掲載されるという形をとっており、とても画期的であると感じた。興味のある分野から選択できたり、ポスターナンバーから検索できたりするため、開催期間中にいつでも閲覧できる点では良かった。しかしその点、執筆者が電子ポスター前に駐在していないため、質疑応答には対応できにくいといった点は不便に感じた。</p> <p>現在注目されている DNP の学位について、プライマリケアを提供する持続可能なヘルスケアの概念について等、新たな知見を得る良い機会になった。</p>	
		

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

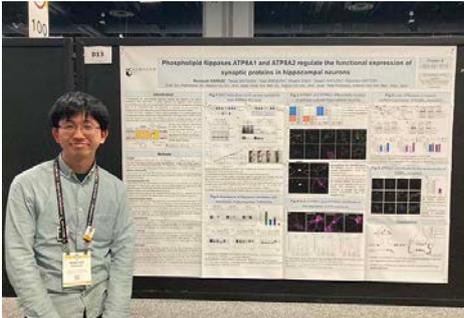
所属	薬学 研究科 博士 課程 1年 (医療機能薬学専攻) () 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入		
	フリガナ カトウ ハルキ 氏名 加藤 遥輝		
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	Cold Spring Harbor Laboratory Neurobiology of Drosophila 2023 (CSHL ショウジョウバエ神経生物学 2023)		
開催地	ニューヨーク州・コールドスプリングハーバー		
開催期間	2023年10月3日 ～ 2023年10月7日		
研究発表題目	Preference for Proximity to Sweet Food Revealed by Location Analysis of <i>Drosophila melanogaster</i>		
発表形式	1. 口頭発表 ② ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)		
<p>私はアメリカのニューヨークで開催された Cold Spring Harbor Laboratory Neurobiology of Drosophila 2023 に参加し、ポスター発表を行いました。この学会はショウジョウバエを用いた神経科学の国際シンポジウムであり、たくさんの著名な研究者とディスカッションすることができました。また、最新の研究についても触れることができ、とても勉強になりました。このような学会に参加したことを、自身の研究に対するモチベーションとするとともに、研究室全体の研究に生かしていきたいと考えています。このような機会をくださった当研究室の桑先生、ならびに名古屋市立大学国際学会発表支援事業に感謝申し上げます。</p>			
			

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	薬学研究科	博士課程	1年 (医療機能薬学専攻 病態生化学分野)	() 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	タケヤシ ユウトウ 竹腰 祐斗			
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	Neuroscience 2023 (神経科学会 2023)			
開催地	アメリカ合衆国・ワシントン DC			
開催期間	2023年 11月 11日 ~ 2023年 11月 15日			
研究発表題目	Reelin regulates lipid composition of the neuronal plasma membrane (リーリンは神経細胞膜の脂質組成を制御する)			
発表形式	1. 口頭発表	<input checked="" type="radio"/> 2. ポスターセッション	3. その他	(使用言語:)
<p>11月11日から15日にかけてアメリカ合衆国・ワシントン DC にて開催された Neuroscience2023 (主催：北米神経科学会) に参加しました。私は神経細胞膜脂質組成に与える分泌タンパク質リーリンの影響に関する研究成果をポスター形式で発表しました。発表に対し、自分が注目している現象のメカニズムや疾患への応用可能性などについて質問されました。本学会にて得られたさまざまな意見をもとに、本研究を論文にし、世界に向けて発表できるよう、今後も研究活動に精進していく所存です。また、今回の発表に際し、ご支援を賜りました名古屋市立大学国際発表支援事業に感謝申し上げます。</p>				



令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	薬学 研究科 博士前期 課程 2 年 (病態生化学分野)			() 内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	カワセ ムネユキ 川瀬 宗之			
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	Neuroscience 2023 (北米神経科学会議)			
開催地	Washington, D.C.			
開催期間	2023 年 11 月 11 日 ~ 2023 年 11 月 15 日			
研究発表題目	Phospholipid flippases ATP8A1 and ATP8A2 regulate the functional expression of synaptic proteins in hippocampal neurons			
発表形式	1. 口頭発表	<input checked="" type="radio"/> 2. ポスターセッション	3. その他	(使用言語: 英語)
<p>2023年11月11-15日に、ワシントンD.C.にて開催されたNeuroscience 2023に参加し、『Phospholipid flippases ATP8A1 and ATP8A2 regulate the functional expression of synaptic proteins in hippocampal neurons』という演題でポスター発表を行いました。多様な研究背景を要する世界各国の研究者たちから意見をいただき、拙い英語ながらも活発な意見交換を行えました。他にも、多くの興味深い研究領域の最新の知見を拝聴、質問するなどの貴重な体験をすることができました。援助をしてくださった名古屋市立大学国際学会発表支援事業に感謝するとともに、今回の経験を今後の研究生活に活かしていきたいです。</p>				
				

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

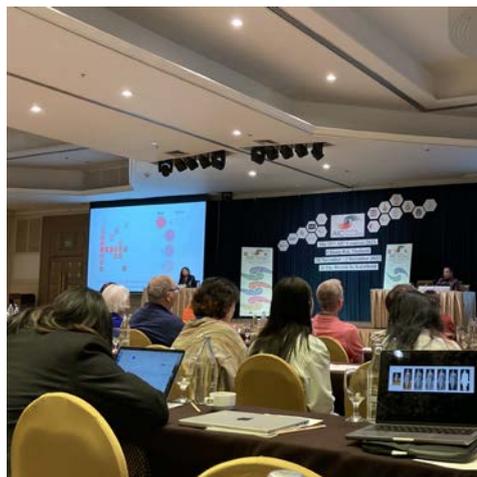
所属	看護学研究科 博士前期課程 2年（国際保健看護学領域）		
フリガナ 氏名	アライ ジョシコ 新井 純子		
学会の名称（必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること）	The 54th Asia Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference 2023 (第54回アジア・太平洋公衆衛生学会 2023)		
開催地	マレーシア クチン		
開催期間	2023年 10月 30日 ～ 2023年 11月 1日		
研究発表題目	Associations Between Access to Health Care and Self-Rated Health among Participants of Community-Based Japanese Classes in Aichi Prefecture 〈和訳〉愛知県の日本語教室の学習者における保健医療アクセスと主観的健康感の関連		
発表形式	1. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 （使用言語： ）		
□ 成果	<p>参加者やポスター評価者から、研究対象地域である愛知県についての質問や、研究対象者の主な来日目的についての質問を受けた。また、今後の研究テーマとして、「日本に住む外国人高齢者について研究したら面白いのではないか」といった提案もあった。貴重な質問と提案は、今後の研究や論文執筆に活かしていきたいと思う。</p>		
□ 感想	<p>発表を通して海外の研究者から貴重なフィードバックを受けることができ、自身の研究を深化させるための新たな視点を得ることができた。また、他の研究者のプレゼンテーションやポスターセッションを通じて、海外の公衆衛生の現状を知るとともに、研究者達が熱意をもって研究に取り組む姿勢に感銘を受けた。</p> <p>今回は私にとって初めての学会参加であり、英語でのコミュニケーションにも不安を感じていたが、学会参加者から多くの刺激を受け、非常に有意義な経験となった。今後もこのような機会を積極的に活用し、自身の研究を発展させていきたいと思う。</p>		
	 		

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	理学研究科 博士後期課程 3年 (理学情報専攻)	()内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ氏名	原 匠一郎	
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	Intelligent Systems Conference 2023 (知能システム会議 2023)	
開催地	オランダ	
開催期間	2023年 9月 7日 ~ 2023年 9月 8日	
研究発表題目	NP4G : 一般化のためのネットワークプログラミング	
発表形式	①.口頭発表 2.ポスターセッション 3.その他 (使用言語 : 英語)	
<p>□ 成果</p> <p>IntelliSys 2023 への参加を通して、国際的に自身の研究成果を英語で発表することや、ディスカッションすることの重要性を再確認することができました。自身の研究発表に対して、会場から質問が出るなど、他の研究者から好意的な関心を得ることができました。また、自身の研究発表だけでなく、多数の AI の最新の研究発表を聴くことができ、幅広い AI 分野の最新の研究成果を知ることができました。会場内では研究者との交流の時間が多く設けられており、自身の専門分野だけではなく、多くの世界中の著名な研究者とディスカッションすることができ、とても刺激になりました。</p>		
		
<p>□ 感想</p> <p>英語での発表には慣れておらず、多少緊張しましたが、国際学会での研究発表は非常に貴重な経験となりました。今後も多くの研究者との国際的な交流を通じて、より研究の視野を広げ、自身の研究にも役立てていきたいと考えています。また、今後も国際学会で発表する機会がありましたら自身の研究成果を発表するとともに、プレプリントサーバの活用や国際学会誌への論文投稿を通して、よりいっそう積極的に世界に発信していこうと考えています。</p>		

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	芸術工学研究科 博士前期課程 1年 (芸術工学専攻)			()内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	フジタ ユウノ 藤田 優之			
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	AIC2023 the 15th Congress of the International Colour Association (国際色彩学会)			
開催地	タイ王国			
開催期間	2023年11月 27日 ~ 2023年 12月 2日			
研究発表題目	Contribution of melanopsin photoreceptors to brightness perception by steady light stimulation			
発表形式	1. 口頭発表	<u>2. ポスターセッション</u>	3. その他	(使用言語：英語)
<p>私は、AIC2023 the 15th Congress of the International Colour Association (国際色彩学会)に参加し、ポスター発表を行いました。</p> <p>発表内容は、「メラノプシン細胞の明るさ知覚への寄与およびヒトの明るさ知覚メカニズム」についてです。</p> <p>ポスター発表を通じて、世界中の研究者の方とディスカッションを行い、実験の頑強性を高めるためのアドバイス、最近の研究内容についてなど、私の今後の研究を発展させる一助となる意見を多数頂くことができました。一方で、英語でのコミュニケーションゆえに、満足に自分の意見を伝えられない場面もありました。今後の課題として、意見を英語で伝えることを中心に、英語力の向上を図りたいと考えています。</p> <p>私が発表したポスターは Honorable mention poster award を受賞しました。</p>				



令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	医学研究科	博士課程	2年 (放射線医学分野)	()内には、専攻・分野・領域・系列等を記入
フリガナ 氏名	サトウ タカフミ 佐藤 崇史			
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	Society of Interventional Radiology 2024 Annual Scientific Meeting (米国 IVR 学会 2024)			
開催地	アメリカ ソルトレイクシティ			
開催期間	2024年 3月 23日 ~ 2024年 3月 28日			
研究発表題目	Robot-assisted CT-guided biopsy: An initial first-in-human proof (和訳) ロボット補助下 CT ガイド下生検の初期経験			
発表形式	①. 口頭発表 2. ポスターセッション 3. その他 (使用言語: 英語)			
<p>□ 成果</p> <p>質疑応答では複数の聴講者から質問があり、米国の同分野における研究者の方々の視点を知ることができた。</p> <p>また、同じセッションや同様の他セッションの中でロボット補助での CT ガイド下生検について報告している報告もいくつかみられ、今後の研究において大変参考となる内容でした。</p> <p>□ 感想</p> <p>はじめての国際学会への参加で緊張しましたが、今回このような学会に参加し、自身の研究について発表できたことは貴重な経験となりました。</p> <p>また、日本ではまだ導入されていない技術を用いた報告や、多くの企業展示やハンズオンセミナーでのデバイスの体験、教育講演などを通して、米国における IVR の最先端の知見を得ることができました。今後も国際学会に積極的に参加し、世界の最先端の知見を学び、研究・臨床に邁進していきたいと思えます。</p>				
				

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	医学研究科	博士課程	1年 (生体防御・総合医学専攻 放射線医学分野)
フリガナ 氏名	塚原 智史 (ツカハラ サトシ)		
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	Society of International Radiology(米国 IVR 学会) 2024		
開催地	アメリカ合衆国、ソルトレイクシティ		
研究発表	Detectability of feeding artery before transarterial chemoembolization with photon counting CT 〈和訳〉 フォトンカウンティング CT を用いた TACE 術前 CT の feeder 描出能について		
発表形式	1. 口頭発表	2. ポスターセッション	3. その他 (使用言語:)
□ 成果	<p>Photon Counting Detector CT は新しい技術であり、関心が高く発表時にも複数の質問がありました。他の微小血管の描出についても質問があり、その他の血管にも応用できる可能性を感じました。本研究については演題提出後も症例数は増加しており、論文化に向けて手ごたえを感じられる発表でした。自分の発表以外にも複数のセッションを聴講させていただきました。Interventional Radiology の領域ではデバイスの差による治療の違いが顕著であり、海外の先進的なデバイスによる新しい治療の話は刺激的でした。企業展示も規模が大きく、それらの先進的なデバイスを手に触れて体感することができ、今後日本に導入されるであろうデバイスについて自身の臨床の上でも役立つと考えます。技術的な面以外でも保険上の違いや外科手術へのアクセスなどの面から、同じ疾患でも日本の臨床とは異なるアプローチで治療を行っている報告が複数ありました。様々なアプローチを知り、それらの成績を学ぶことで、普段当たり前に行っている診療を見直す良いきっかけとなりました。</p> <p>一般演題の他にも複数のシンポジウムなどのセッションが開催されていました。国際学会においても、Interventional Radiology の専門性の担保、若手の確保、女性医師の立場など、日本において議論されるテーマが挙がっており、日本において我々が抱える問題を考える上でも大変参考になりました。他地域から参加した日本人医師や、現地に留学されている医師との交流も得られました。私は留学を経験したことはありませんが、現地での生活や働き方など、今後留学を考えるうえで参考になるお話を聞くことができました。私の拙い英語ではありましたが、外国人医師や企業の方とも情報交換ができ、有意義でした。</p>		
			

令和5年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書 [国外参加]

所属	医学研究科	博士課程	1年 (生体防御・総合医学専攻 放射線医学分野)
フリガナ 氏名	塚原 智史 (ツカハラ サトシ)		
学会の名称 (必ずカッコ書きで学会名の日本語訳を付けること)	Society of International Radiology(米国 IVR 学会) 2024		
開催地	アメリカ合衆国、ソルトレイクシティ		
研究発表	Detectability of feeding artery before transarterial chemoembolization with photon counting CT (和訳) フォトンカウンティング CT を用いた TACE 術前 CT の feeder 描出能について		
発表形式	1. 口頭発表	2. ポスターセッション	3. その他 (使用言語:)
□ 成果	<p>Photon Counting Detector CT は新しい技術であり、関心が高く発表時にも複数の質問がありました。他の微小血管の描出についても質問があり、その他の血管にも応用できる可能性を感じました。本研究については演題提出後も症例数は増加しており、論文化に向けて手ごたえを感じられる発表でした。自分の発表以外にも複数のセッションを聴講させていただきました。Interventional Radiology の領域ではデバイスの差による治療の違いが顕著であり、海外の先進的なデバイスによる新しい治療の話は刺激的でした。企業展示も規模が大きく、それらの先進的なデバイスを手に触れて体感することができ、今後日本に導入されるであろうデバイスについて自身の臨床の上でも役立つと考えます。技術的な面以外でも保険上の違いや外科手術へのアクセスなどの面から、同じ疾患でも日本の臨床とは異なるアプローチで治療を行っている報告が複数ありました。様々なアプローチを知り、それらの成績を学ぶことで、普段当たり前に行っている診療を見直す良いきっかけとなりました。</p> <p>一般演題の他にも複数のシンポジウムなどのセッションが開催されていました。国際学会においても、Interventional Radiology の専門性の担保、若手の確保、女性医師の立場など、日本において議論されるテーマが挙がっており、日本において我々が抱える問題を考える上でも大変参考になりました。他地域から参加した日本人医師や、現地に留学されている医師との交流も得られました。私は留学を経験したことがありませんが、現地での生活や働き方など、今後留学を考えるうえで参考になるお話を聞くことができました。私の拙い英語ではありましたが、外国人医師や企業の方とも情報交換ができ、有意義でした。</p>		
			